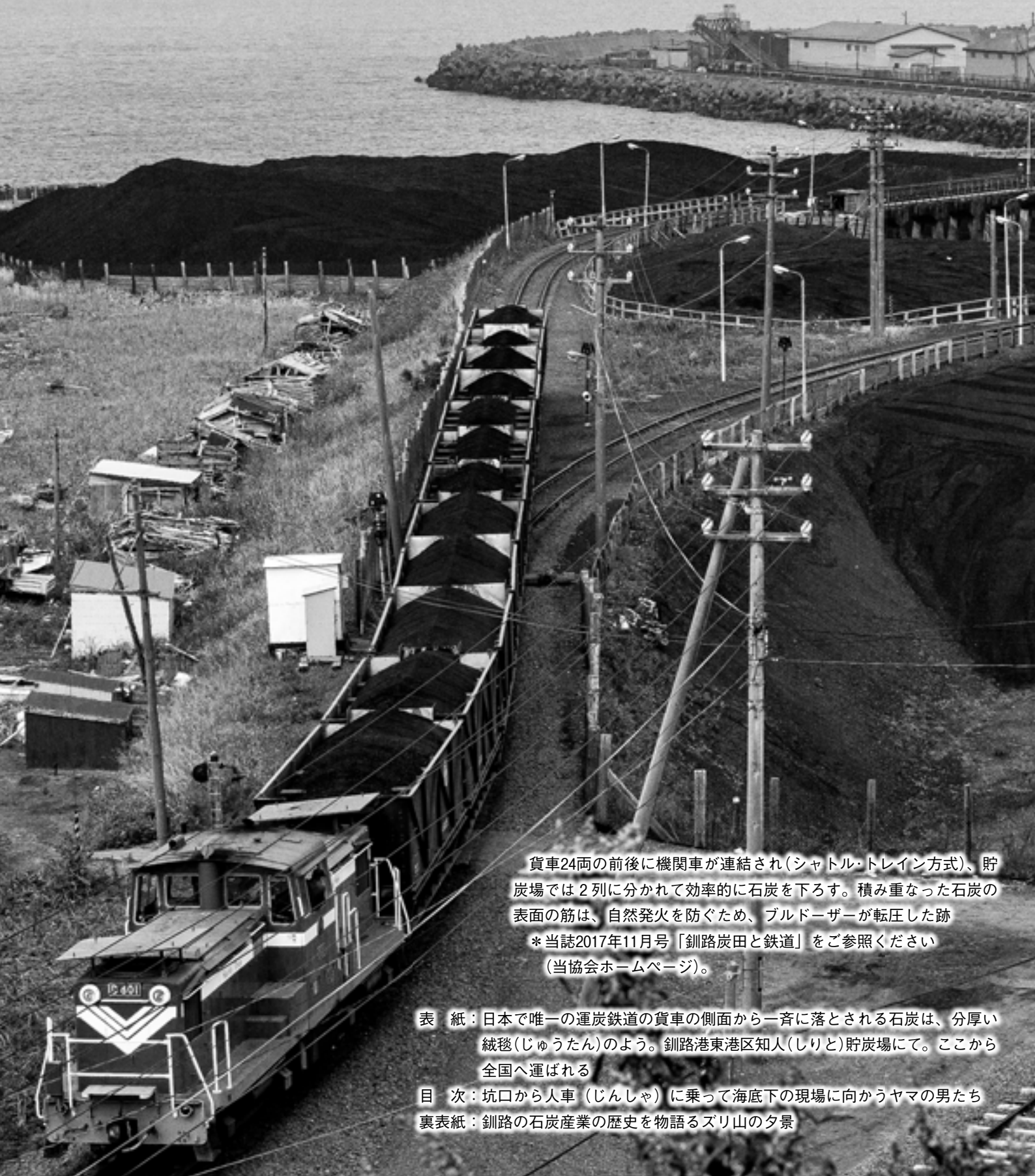


# ときを越えて明日に引



貨車24両の前後に機関車が連結され(シャトル・トレイン方式)、貯炭場では2列に分かれて効率的に石炭を下ろす。積み重なった石炭の表面の筋は、自然発火を防ぐため、ブルドーザーが転圧した跡

\*当誌2017年11月号「釧路炭田と鉄道」をご参照ください  
(当協会ホームページ)。

表紙：日本で唯一の運炭鉄道の貨車の側面から一斉に落とされる石炭は、分厚い絨毯(じゅうたん)のよう。釧路港東港区知人(しりと)貯炭場にて。ここから全国へ運ばれる

目次：坑口から人車(じんしゃ)に乗って海底下の現場に向かうヤマの男たち

裏表紙：釧路の石炭産業の歴史を物語るズリ山の夕景

# き継がれる石炭産業

## 釧路コールマイン



釧路市の南東部から沖合約3kmの海底下では、国内唯一の坑内掘炭鉱、釧路コールマインが石炭を採掘しています。年間約50万tの石炭が生産され、主に低公害炭として電力や一般産業を中心に幅広く利用されています。

日本は世界でも有数の石炭輸入国であり、国内需要量の99%以上を海外からの輸入に依存する中、釧路コールマインの優れた保安・生産技術は、中国、ベトナム、インドネシアの炭鉱技術者へ伝えられています。2002年にスタートした受入れ研修事業は、15年間で2,600名を超え、アジア産炭国の石炭生産量が増加し、炭鉱での死亡災害率も大幅に引き下がるなど、効率が高く、実効性ある事業として相手国から大きな評価を得ています。

この長年の取組などが評価されて、釧路市は2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けてベトナムのホストタウンに登録され、スポーツという新たな切り口が加わり、市民レベルの交流がさらに活発になることが期待されています。

また、同市では2019年の運転開始に向けて、石炭と木質バイオマスとの混焼による環境負荷を抑えた火力発電所の建設計画が示されました。

生きた炭鉱技術が引き継がれてこそ、明日の技術開発が可能になります。